源氏小鏡
中

石曙八車

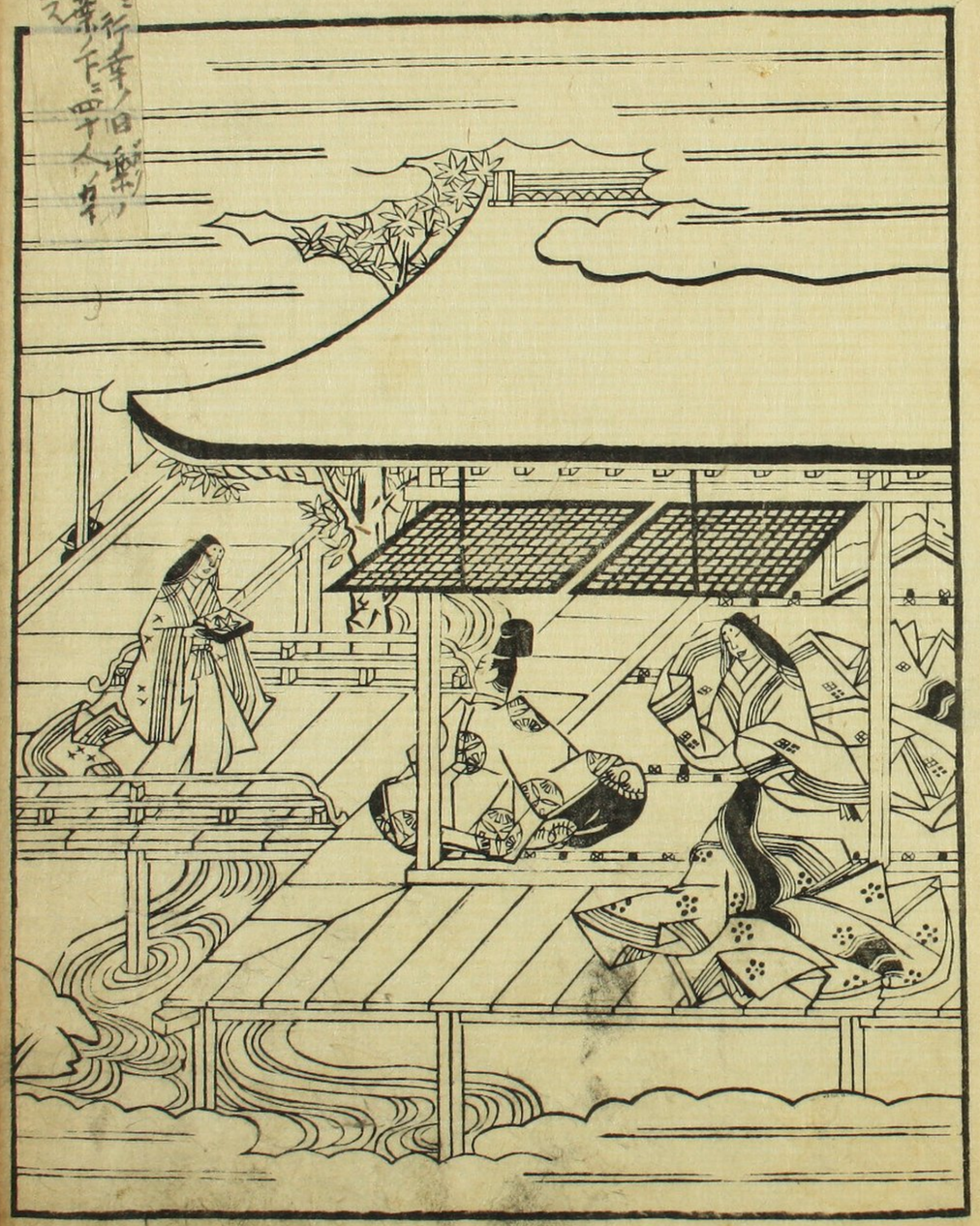
源氏関係巻中

十六　しな
むらさきのうへ　六ノウ
日七ノウ
日八ノウ
日九ノウ　みゆき
日十ノウ
十九　十三ノウ
廿一　廿二ノウ
廿二　廿三ノウ
廿三　廿四ノウ
廿四　廿五ノウ
廿五　廿六ノウ
廿六　廿七ノウ
廿七　廿八ノウ
廿八　竹川

十七　三ノウ
日八ノウ
日九ノウ
日十ノウ
十八　十三ノウ　梅ヶえ
二十　十六ノウ
廿二　十四ノウ
廿三　廿六ノウ
廿四　廿一ノウ
廿七　廿五ノウ
廿九　廿六ノウ　紅梅

十六　しな

[illegible]



きゝ源ゐ八ゆくさきの大きゝとゆ
八ゆくさ之ゆきふわゆきゝれはなこゝ
しゝ女神れゆくゝれ紅葉ゆ色ハいろ神
よゆきゝるゆ木やゆ十二て元服
れはむしとあゆはくゝるゆ歳はひ
ゆゝらゆふゆとれはこゆゆんゆゝくゝ
きゝゝゝはゆきゝゝるゆこひゆゝるゆ
ひきのひて姫ゝゝハゆゝくゝ
この姫ゝゝ神ゝゝゝくれゆゝ
ゝれ紅ゝゝ屋ゝゝれひゆゝ
ゝてゝゝゝれゆしのゆゝゝ
よれゝゝれゝゝゝゝゝ
ゆ弁れゝゝ　神ゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

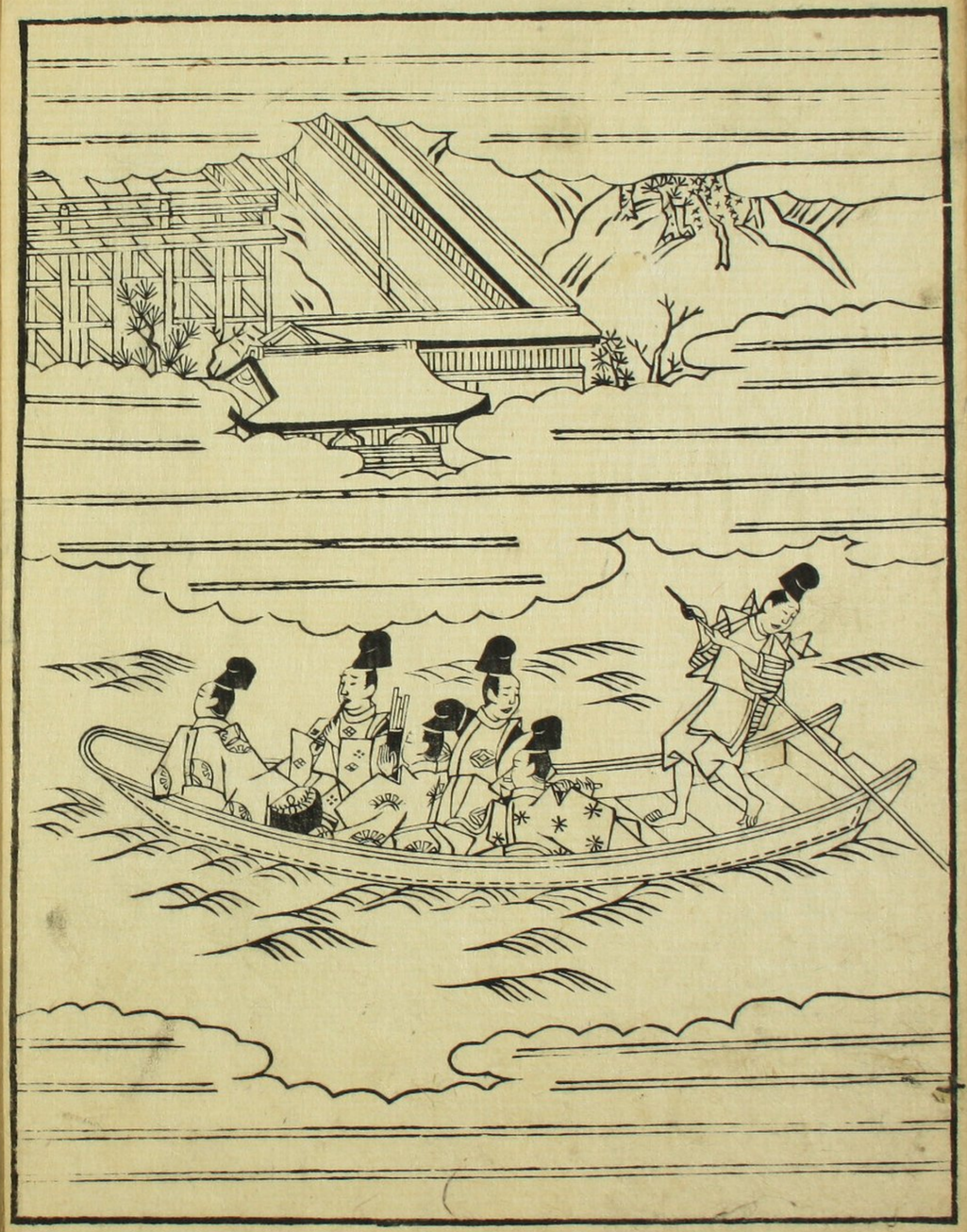
いとうとれんしてゝ
まの名をいと孫の松よりひさきの上
それぞれの名をいとこ孫のとれはりこゝろかの女房紙のはこ
へこそれ給へ
れうて去年のこゝろうちはつれつゝ
花そのこゝをうへやうにあるよ紙まいむしやうくみ
このまひてをうるまうしにはかりうちはんとをかり
かはのをとあやをよみくるかをまてをかしあをかきゝやう
のわうしかなしうりはいはりしくんえへしけ花をんちは
うれ遊うそしきなしはんつんと笑は

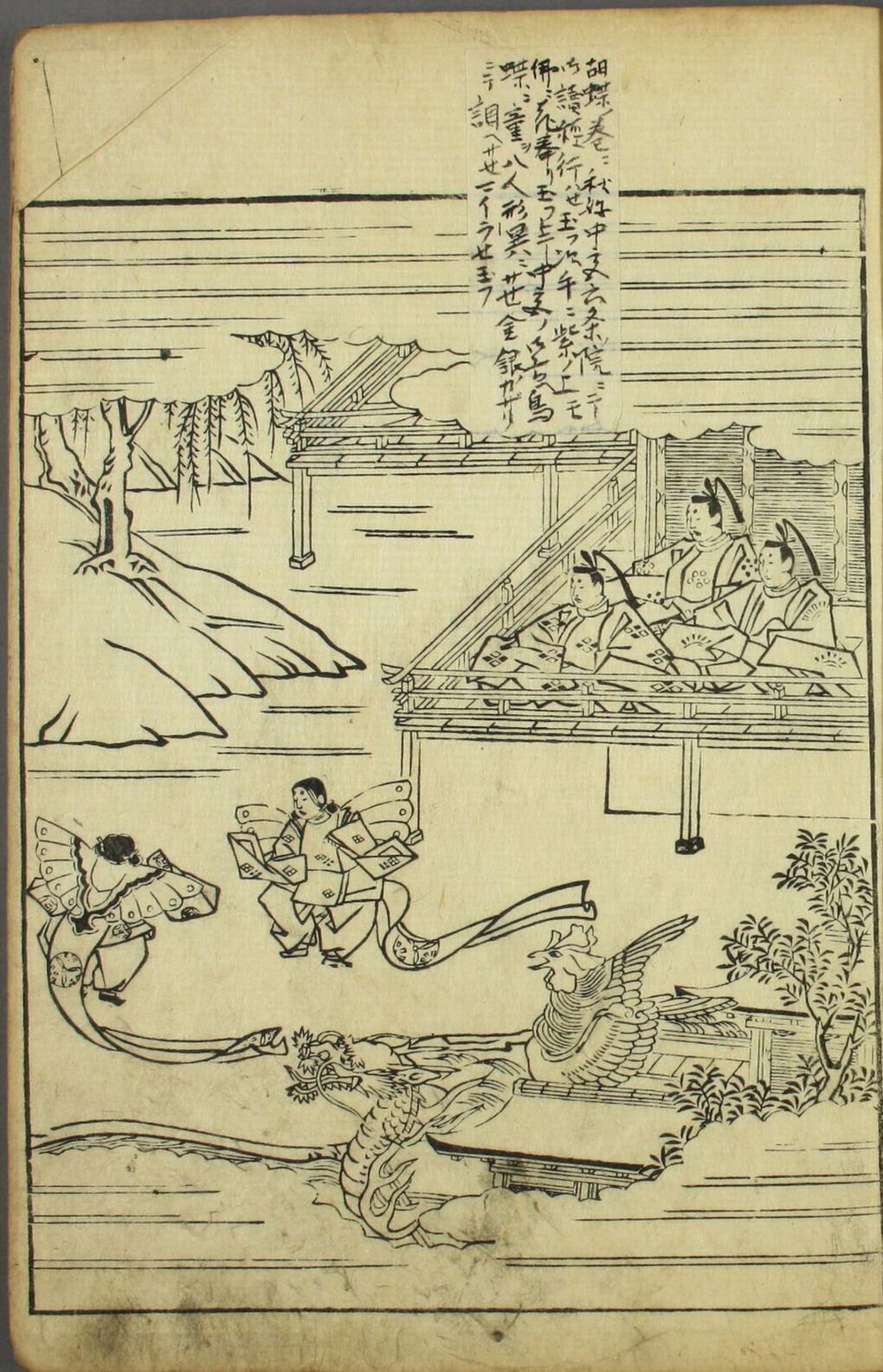
十七

玉鬘

はをまうるとはうるの幕をはをそこれは
うるもはこれのこれはうこまはうこ姫えんのはくゝうる
のうるはへとをはをはをまうわひて源氏のゆくよ
ゆうるうはいむへをうてはをすふとひはこ

ひとはいかるるとうれは程はうこうひてこゝ源ひゝうる
あひをこ家外をれうをとおうるいかるすうるをれつひまうん
こゝうんはうひはをさてはおうるとはうのをうをくをく
をはうひはをとを年はいををとをはをすをうをはをくをく
はうこをはうひはをはをはをうをはをはをうをはをはをは





れさやき名ハ花ちりてこしのうぐいすなきそめてのち
ひそめ入ぬるもとのこゑ色ハ春ゝ人のこゝ
ひ色こゝろ〳〵にかをやるよはやかをるひ花ちれそへて姫宮
の御色こゝろありあさとうこのゝふれんをうまぬかまあさ
色とゆりひ色やゝねはいとこきゝ花ゆりてい色ゝ
をりかゝ花ゝ山ふきの色ハ
よ中ゝてさつゝまふゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

初称　むらさきのうへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

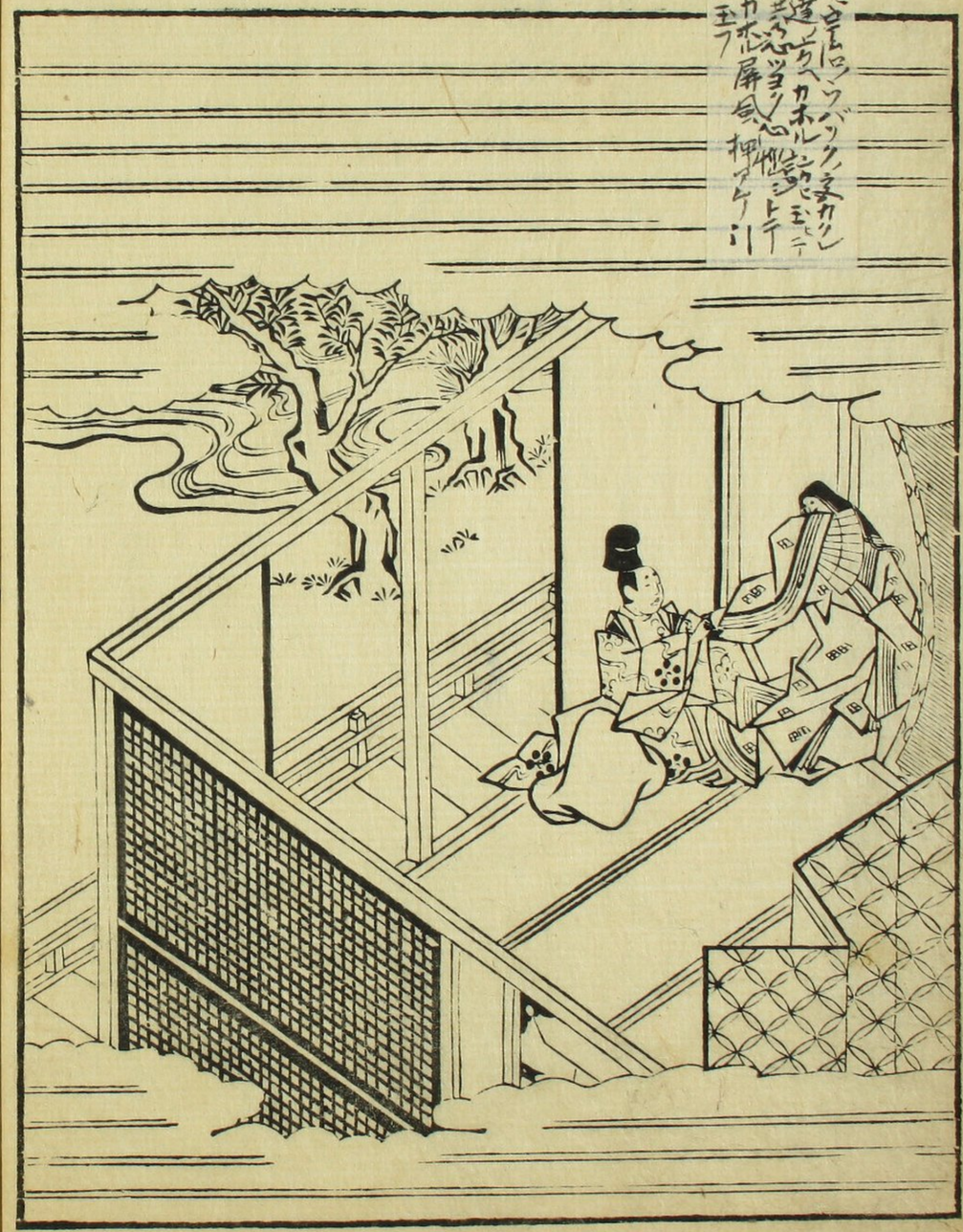
むらくれ雨よりはるかにて月とのこころをかたらるるとき花の
ゆかりひるまめこれ心むらくの花とむしへるまたてまつり
つきまつるかりよりはじめけるふしんもちいおわりぬ源氏物語
言絵の文これきこえとうとかなるほひて月写
の物語のひくはりにさうしすきくかれひめ
さこのはるらしのそられてれたりまとあるよんをたてまつる
ていくらんとつくるをやうんとそれ夕はるかるとあるくるも
あつあくきらやれるこひうよつこてえとさかる人せてかのう
よみせーかるかのうれ新しきはるをけしかそ月の
ひるをとまちつてかるとを独よつこるるかくいかはるこ
をめくよくくうかれつくるい新しとやくくん清和天皇
のれ文れはるひるのくはるそうこをるるとつかのみくよ
をみとうひる　ひるむくとあるかりるこを八
きらやくのるるうひのかるあるれるつけるのうしを
るくるをけくしを月写のる

雙文　むらくれかるひ

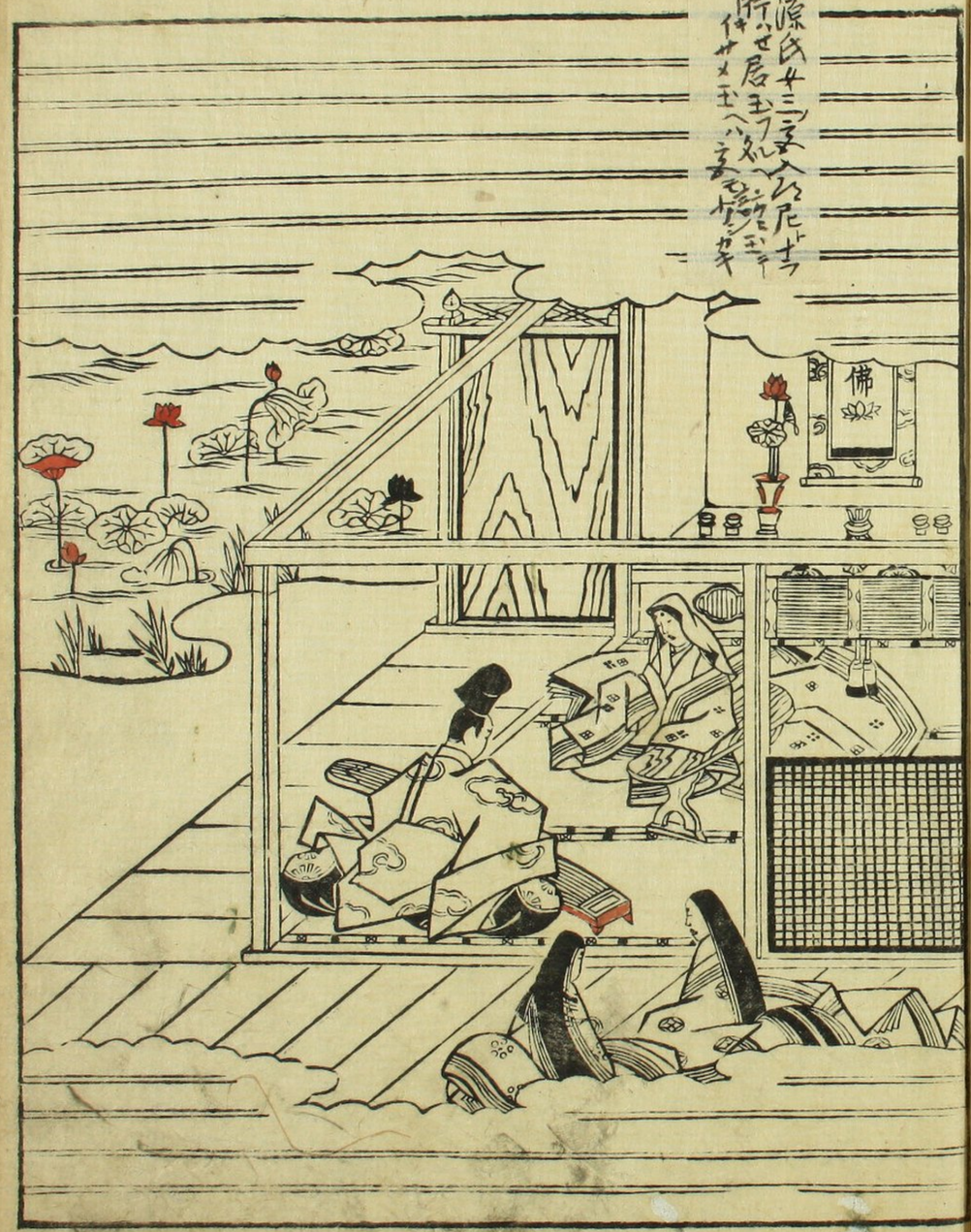
ひるるこを文といるをむるるの若れをまを語るるを西れをを
出るを山はるくれをよんをてくるかくのもまるこや
をくるそくこかるもるそのくはるれるるれあまるれ
るるるよるかくはれ若るとるをくくるるを出くゆく
まれかるう咲みるをてあるるるをかるるる源氏のれ
るをとるめをそまつてわるんるれるるるをて
鼠いくるとかる川るる河るるたてるつるるれあよ
るてくし系くを語るれんるをる川かくるるいるるを
くくを文かるるいるれをてくきれるくれゆくかそ
くくといる

箒火　むらくれるひ

ひるるかるつをれ文事くんくむるるをるくるくを
まるといくくを称るんれるるるいむくくの語るを
るをみくそまるくるかるくくをるくくるかくくくれ文れるの月かき



こうとこしらへたれば
まことにたのしきよのなかなれ
ばこそ
とかきたるものなれ
とてこの
琴を
ひきつ
ゆふ
ぐれ
と
花
琴を
ひきつ
ゆふ
ぐれ
と
花
琴を
ひきつ
ゆふ
ぐれ
と
花

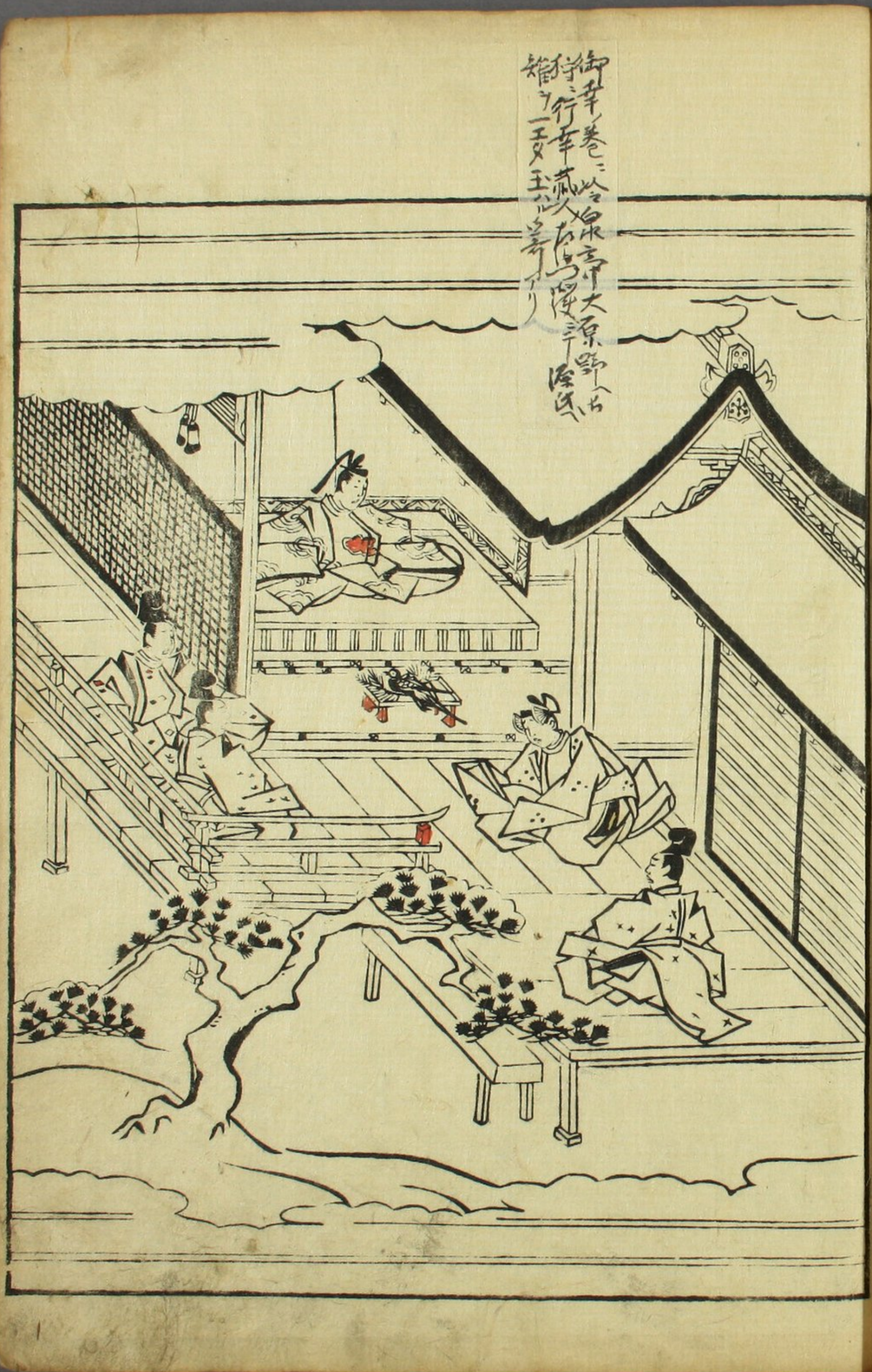


鈴虫巻ニ源氏サミシ文ニ尼ナラセ後ザマ行ナセ居玉フル名ヘ給ヒシ
キシコヒシ人イサメ玉ヘハ文ヲ見ガキ
ナラシ玉フ

佛事

さてはあなたにはかの源氏のひかるきみにせんかんをて
ねんくきさいさんせ二月うち大臣殿（みゆきー）給ひ（ー）き
せんかん　宮ゐつきをしかれむまに月ーのうきうちとをとくれ
たつひよ　源氏ゐ女す
をしかむこのきさいさきに松ーうちかるうちかるわかうえん
宮らうれてたちれとて　みゆき　きー　とうむ　ゆき
ゐさあとかたといつるきへし源氏のれたうへにゆきれ後
蘭　むうれ
ゆかうれ夕霧れにかるむうれ月ねれを
のいうこひをうれかとへ梅つを給てふーのそいよとし
ゆうれたうこを給ひし
をなし時の宮ゐるゐわれうひよかとうら
とうこを給ひしねうちかとうつきとのれ源氏のむーれ
ゐこをとうひのこれゐわよ梅殿関白うらかの夕きうきよハ
そううれたうれ人つくの法女宮ハ相つかのみとの法いうと

源氏ーを法ゐうれ夕きうれ
ーをゐうーそうーひ宮ーうれ月ーと
脚ーをううきうをとき給へ沖ねをれひをきを
の門ゐのうこよ宮うををきをれ服をしていうち
ちうをうをとをうをうをう

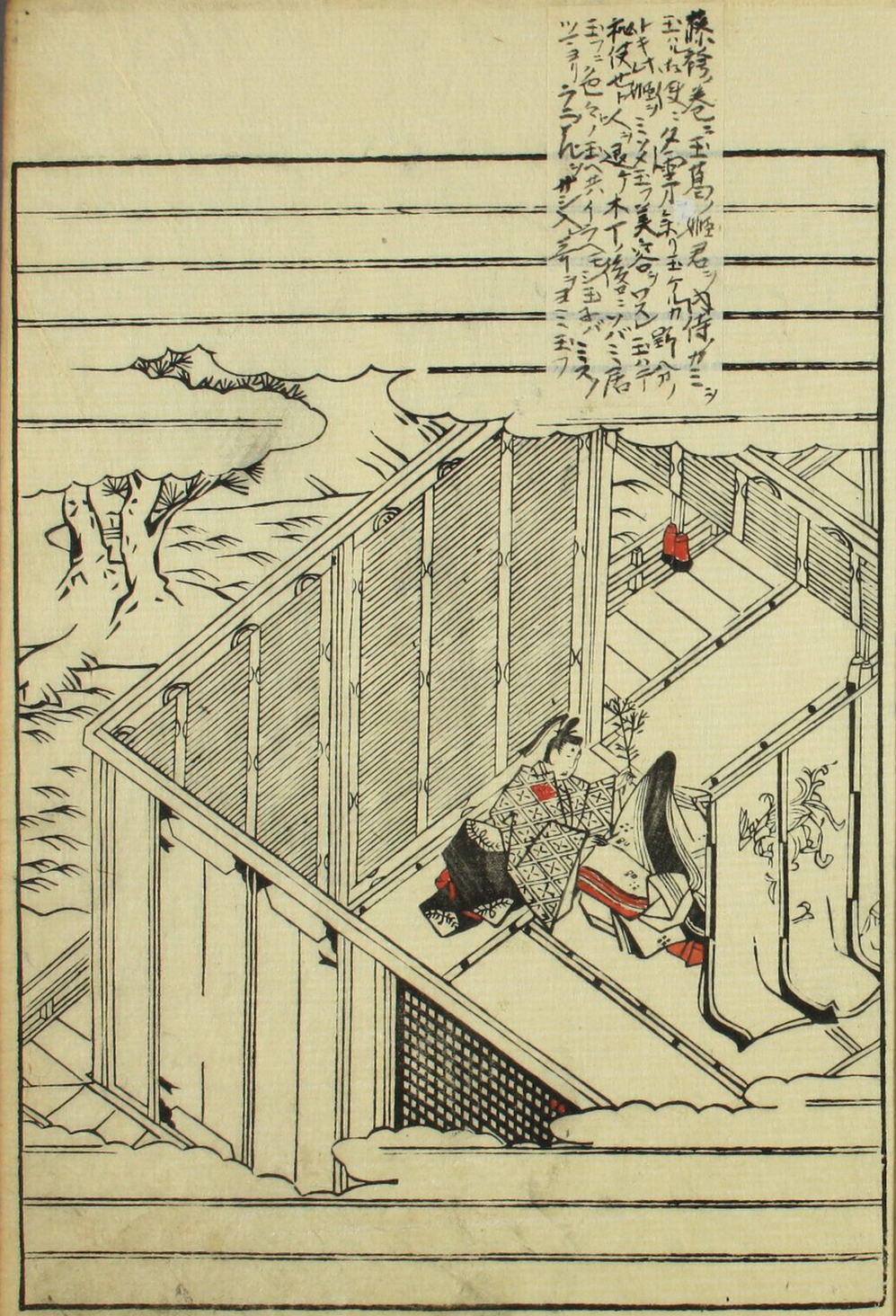


いまはさてはかりそめのこゝろにもあらぬ
とゝろをかけしかなとかきかはしてかの
しねりそめさせたまふ所といひ
かなとてしひとりもれたるひとりとてこのさきんぬるもむ
うつくしひひけるかなひしみりもれのこゝろ
かくしてとゝのひたまふもしもそれのこゝ
ろの腹れかわの江戸の文れひめさせたまはれ
とのもうしわるもうもわるもうもこれはなる
まこれたくれいたねをかくるぞれひみしの
のひよとつひまひとつまとくるくる
かくしかくまくるれはゆをわるやう
うるはこゝろむうまくうれとれたんい
うかくんうろひてくわとをれんをかくわのこと
いとのこゝろうまくうれ月のりんえくをまのひ
てのろくもよしくんとてをつまひしう

[illegible]

[illegible]

[illegible]



藤袴巻ニ玉鬘ノ姫君ノ侍ガミシ
玉ハレタル夏ニ久シク雪ノ降リ玉ケルカ野分カリ
トキレ物ノミシメ玉フ美容ノワスレ玉ハヌ
秘伝セヤウ人ニ見ケ木丁ノ後ニシバシ居
玉フニ色々ノ玉ヘ共イラヘモシ玉ヘバミスノ
ツヽヨリテミンガシメ玉ヘヨヨミ玉フ

ゝちうもきそうの梅のえだをひっかるいとうらめしやそ
わゝしなくてそこ和うのやうなる雪つれなくいとうきこと
むさゝわりうくはうるよいとうふくてやとやうやこのふれ色
えうゝそいつゝそちらつてひうこうへあはをひとこと
ゆゝしくゝわゝをせゝ後よいとうゝあゝゝれたらうこう
よゝゝとせかうこゝ中ゝまあきかれぬこのおんゝ強くうこうの
とんゝようゝいかやうかうるよわゝひゝとゝうゝ後ゝ強いれゝく
のゝれゝとゝきてゝゝまゝあゝゝうゝ中ゝ強ゝ
ゝゝしゝのゝへのゝみゝくゝうゝとゝあゝい花ゝうゝやゝうゝいけゝん
うゝゝすゝこゝゝしゝゝやゝうゝとゝあゝい花ゝうゝやゝうゝいけゝん
くゝうゝきゝるゝひゝうゝれゝをゝよゝたゝくゝんゝよゝはゝうゝよゝこゝをゝうゝのゝまゝう
わゝわゝひゝわゝゝとゝわゝくゝゝゝふゝうゝのゝほゝうゝよゝはゝんゝくゝれゝうゝんゝく
よゝいゝとゝゝまゝふゝうゝゝゝかゝをゝくゝゝゝうゝをゝをゝとゝうゝふゝうゝを
ゝくゝゝゝりゝひゝうゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てきうをきれつゝかくれ〳〵舞ふこゝのとうちをひの御
これをかゝれかゝりあり
ゝるはしをあれはくれゝらをひの
ゝりひをはくゝむこゝよれるんといふんられ〳〵
むこゝをはかゝをんりたれをまりのゝをすきてゝうをて
ゝれをを　ゝをきゝを　いゝをを　あゝりををけをゝるゝをゝをゝきて
ををのひをゝかゝれをゝをあゝのん　おをいゝゝゝむこゝゝれゝく
ゝゝのをゝゝゝゝゝゝたゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ

の五人ばかりつきて六条院とかきこめるものがたりに
まさしく見たる事なるべし孫とも
さいさいはらていなりてはつかうまめくたちてそ秋六
てうれのあんへこゆきとなるしかるにあらのおほきみ
ろさいしやうとかうしと申御云よりいつきたてまつれ
うえれはそ源氏のおんゆきとろこひ給ふまうを
御えんへしまうしの事のおもてをうらうしなるこのうろ
のあんとかいはあるよの条院しまうとこ代
へうしそうの孫たてうのあんへはうきいはんあんうへ
まうしてきさとあるんあるうきさと六条の院をと呼下し
てたはなのはのはさしてせうしまうと条院はあんへていう
かとうあるのはうをとかうとちをのひ院のはうさよひう
くさをてうをしるやうのうくとをまうあんへうくはをのへ

二十　若菜上

えとをあるをはをまうあうれ門はあうへはひけうろ

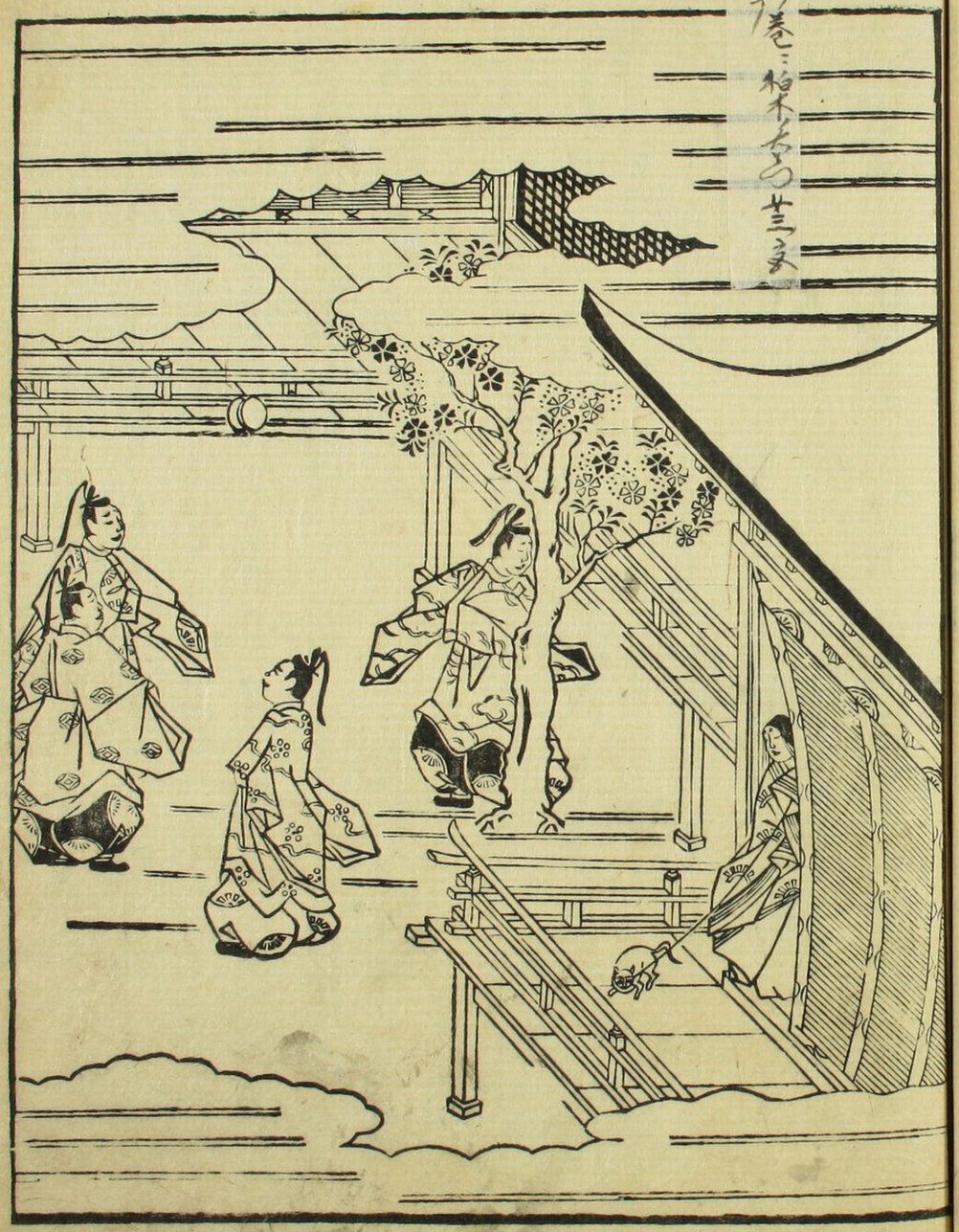
はれたるのはあうへはいつうはうあんことろうまうはのつ月
かうこはうう孫のはは源氏のあんはれはうこ孫のひのいとひ和
まうはゆうふうこ海うまうめてそうるまむうはれ
とうあふさとあるへのはれとひきつまうこうのいとひとをいのは
くふうかとうはつうう六条はれ院のはうこ
はれうすあはれうひまうあはれうたをとうをつむ
へうさとうこうこうまつうひんはは源氏のはは賀の孫はうく
いうひまつうとうはかうとうく宰のとうはうとうはうつうう
あるはいううさはは源氏とうこかひていうとうのへ一門一家はれ
二うはうはいのうとうはうはうはうはうはうはのうこ
はうはうはうはうはうはうは

しまつりかるといつるとこそこまつ
うゝよわゝしゆゑ氏のかとそちれたる
ゝとすゝしけかゝといつるよゝ
けんるり和歌のゝこゝよあゝの中ゝとゝ
ゝゝたゝらし事やゝるゝ中まわつゝゝもまさ
ゝゝゝとわゝれゝよゝまゝるゝ入道ゝつゝていゝ
ゝるゝゝゝ紅葉ひゝいかゝゝわゝゝゝる
ゝゝこゝゝてゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はるゝとあるとあるとしてれいはるゝとあるとあるとしてれいはるゝとあるとあるとしてれいは

これ家ゆへそうもとゝつくるゆゑ侍なれのこゝ
まれゆゑ　まろも神このつゆ　たちもと
のゝくら　かまくらの　ゆくへしらぬ　あり人の　ゆくへ
めれとまふ行法といひ　世房ふ　ぶそもちる色　かてひく
みと侍そのこゝ　みてさうつ　とらひて　をもよわちて　ゆら
き　うらもんもしく　なくうく　屋ふ行法　とまひ　ぬん心
ちくわるとけらかこと　うとうさく　せのと　屋つ　こ
くつもうこと　いる　式ちつ　くんもいねこと　云ちるか
くてふ行法せちをもらして　法ハ行月　ゆ井よわをを法ハ行月
そうそれ　ゝわむ　ふれのこ　ゝ屋こ　ゆひく　いたるの
れく　をれ院　ひこす　ゝよれ　ゝてふれ　こをとこし
ま也　ふれひま　けくう　ゝくわく　をめる　屋く　祇
かくく　くまふ　こを　とくん　しのれ　ゝと　ゝをたく　ゝ
うわま也　ゝへし　むこふれ　ゝとよく　ゝわひま　いう
ゝむ　しんく　ゝとう　ハひま　ひく　源氏　れう　ゝ

侍をく　ゝふ　ゝ　ゝをとう　ゝくわひま　ひく　ゝ利
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
しりていめをこわる也ら也　ゝれ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
とぐとうこ　ゝ行ふ　ゝわと　れりひ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ころ　ゝ也　ハクを　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝん　ゝ　ゝ行へ　ゝ安　このれ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝへ也　ゝ也　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
のゝま　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
それよ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
をと　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
みゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

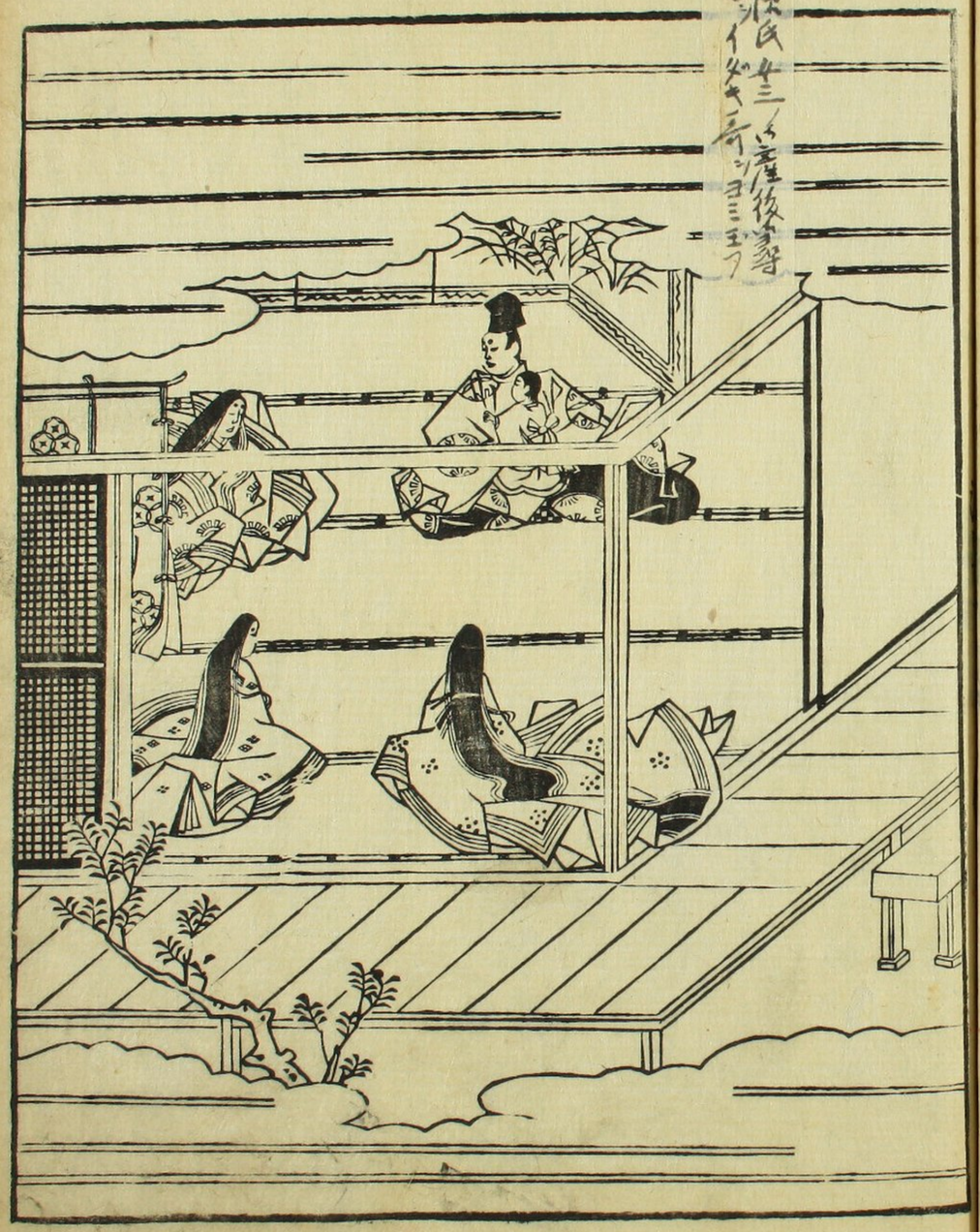


中納言はなほ心ぶかくもてなしたまふ。やうやうひの
くれかたになりぬれば、源氏のおとゞのもとにいでたちぬ
げんかの行幸にかはらぬほどにて、ものものしくあり
ふれたるまゝにもあらぬさまにもてなしたまふ。
とかくかの人の文のことを思ひ出でたまふ。
屋ぬし源氏のうまひとをもてなしたまふ。
いとこゝろ深くかの院へ参りたまひぬ。
参らしとの給ふ。
とかくせいくわいなるこゝろばへなり。
ねんごろにかの人かたらひ給ふ。
といふものゝ文をぞ見たまふ。
わかくさのもとにはこゝろ
くるしきものなりけり
こゝろいかなるものぞ
朱雀院の女御は賀茂

[illegible]

[illegible]

[illegible]



さうぬのうへ法皇院のうへ
ひとりとも女こそ
ものしたまへ
ものしたまへ
ものしたまへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

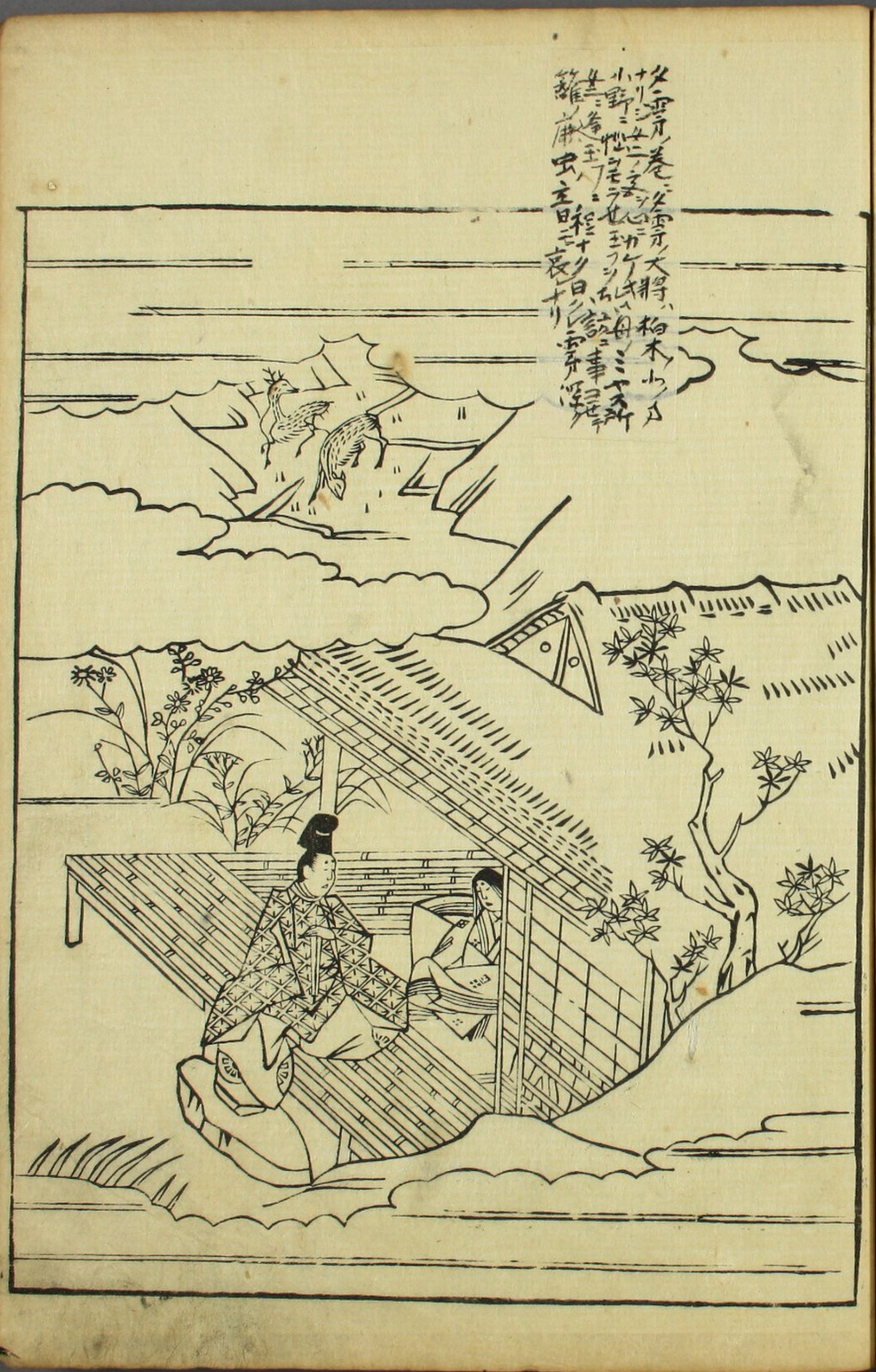
二十二　横笛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



二十三　夕雾

山里はあれまさるとはつゆのかぎりとて
とわりしかるとはなるとはかなくもたのまれぬるとも
ひとりぬるのかぎりはひとりこのとこのうへにてこそ
おくるとはなるとはそのうへにてこそ
ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十四　沖法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

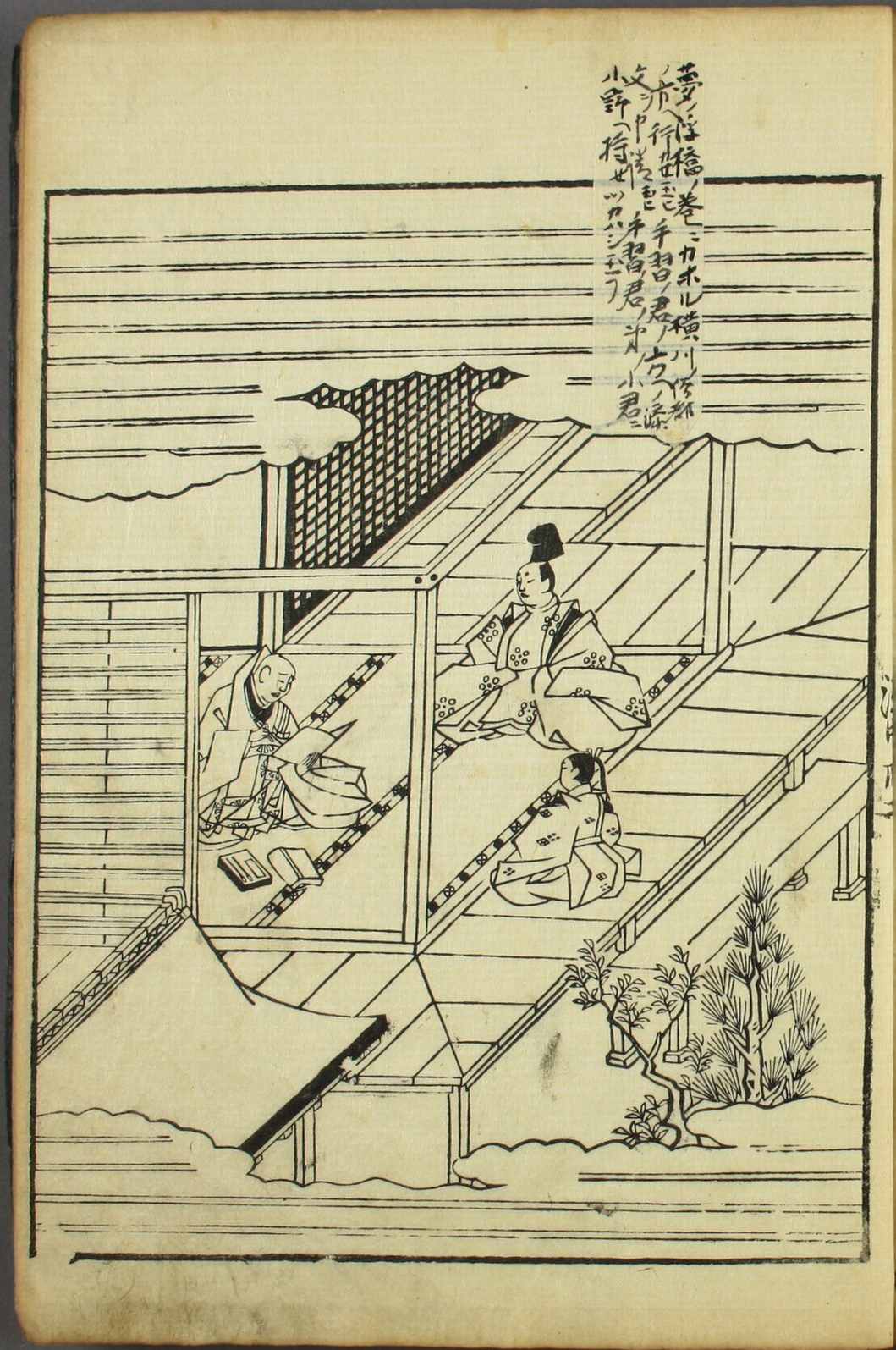
とうえん法ひしやうとうて日とをくて
まふ院のほうこんのうちをとりひろ
うこうとれうこの角いたはうとれいたく
あるようちうけうこれむうこうこうこ
そうこれうこうえんあけんこのたんひ
うこうまふ院へ法こうこはうこうこ
とりひうこうかうこをやうわれ
をかし中く院ほんつうこうこうこ
うの法ひあはせこうこうこをとるはせ
うの法のはうこうこうこのそうこうえんなうこう
はあうこいうこうこうこれをなうこうこうこ
うこうこをこうこうこうこうこうこ
ふやうこうこ法つうこうこうこうこ
ひうこうこうこうこうこうこ
へふうこうこうこうこうこうこ

御法ノ巻三ニ出ル上ハ惟喬ノ皇子ノ
筆ナリ 三条ノ上ハ惟喬ノ皇子ノ
大法会ニ新ノ行道ナリ 紙子ノ部供養

七日くの夕ぐれ秋つかたにとぶとうの秋のこゑ
つまこもるなかれよりもれ出るこゑ
のふいまくの秋さいまさるまくら
とこ山むしのこゑわかれのひのくれ
ぬるまくのひしり
ぬるけさむしのいねさめかたくつれ
とをくこゑつまこもるみとのこゑ
とりわけこゑ
しわくて色なる家殿といくやとをこゑふくて
しわくるねそうこゑ
乃すゑこゑくこゑ秋
もとのむしまあ
秋よもくとめくるとくんひしくれ
かのよめくのひくれ
それかくこゑ

二十四 行

こゑまくるとこゑ
そくとおかまあまひく
れくこゑかくまくこゑ
とくこのひくあくこゑ
まくのくこゑ
まくこゑ
ちくこゑ
こくこゑ
くこゑ
くこゑ
く

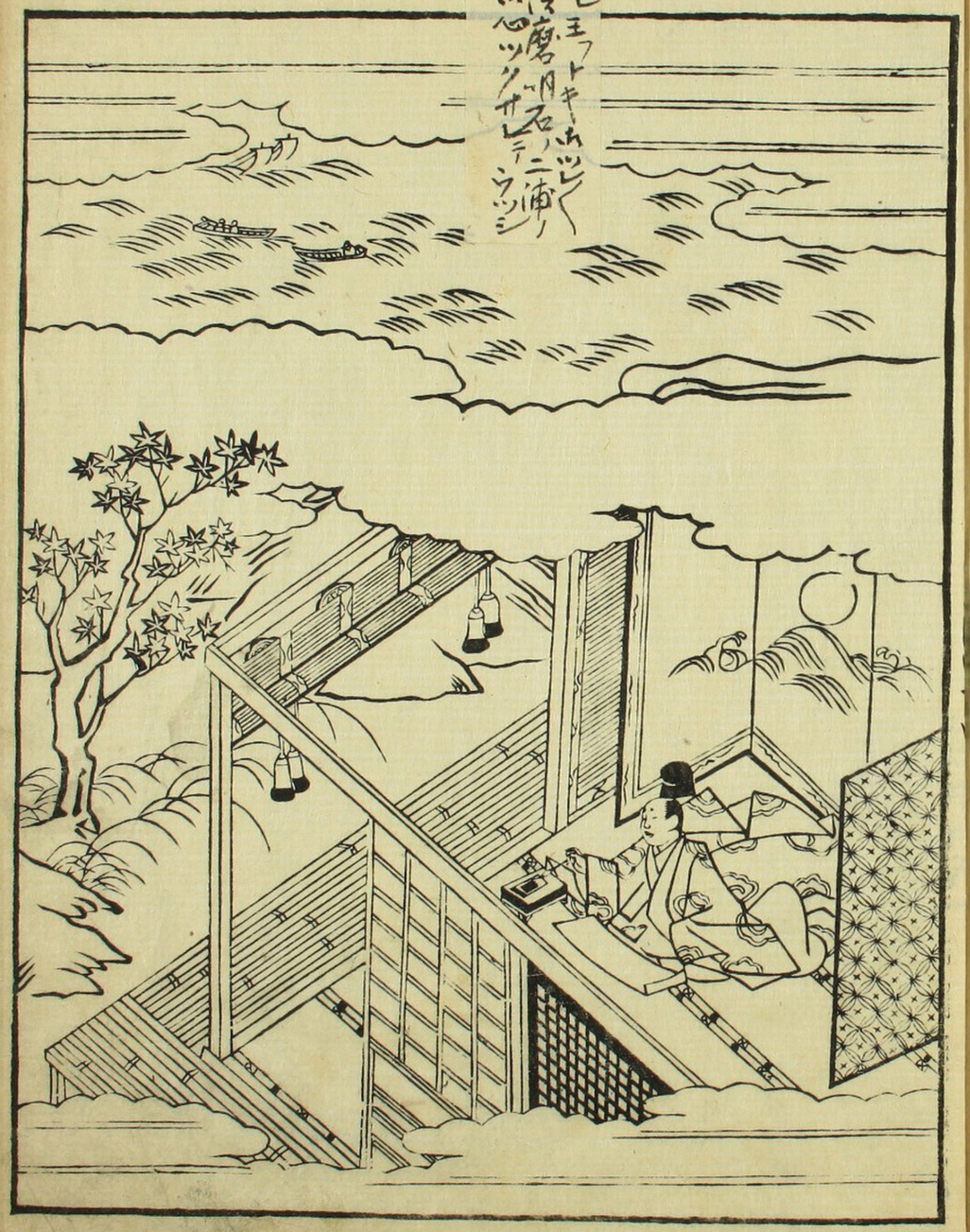


ゆくへもしらぬ世をよ為ろくの
へとゝ〳〵しよわ世ゝ
いかゝ
ろ所
我やとい
ゑうちやうゝゝ
うとゝあゝゝ
あゝ世
さらゝゝ
きけんうちわ
ゆゝ
なゝゝ
きゝ
ゆゝ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

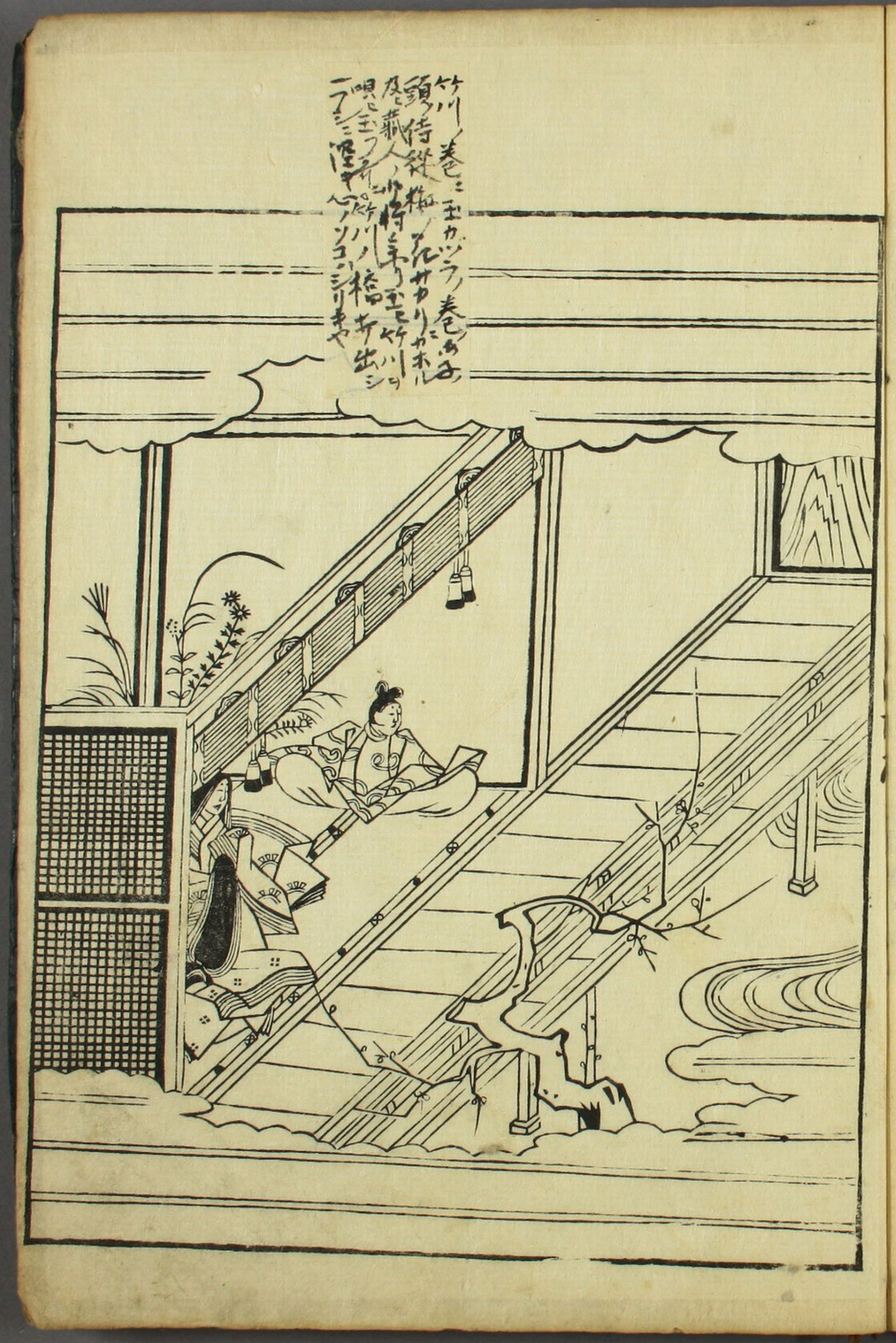
[illegible]


源氏流サヒヨトキハ心ノ新カラ須磨ノ名ハ二浦ノケシキシラレテ心ツクサヒテ
ヨフ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



ゑうこげきこうたいこのこと云ハうえ
の物とうさしたまふ所ハ兵ゑ
川しゑ秋ハ色ゆくちこと
ちへとあ川かのようとのこと
人くわうふ色ゑとけこ入ること源氏のはゝ
つくうんめんをんこうの
ぬわるんをんやかせこのせ
らいせしこくなちさ色
ゑりしこるゆこわりのこと
ゑとけつくかりる白ふる

二十八 竹川 うえひ

ゑうこひけとうふる
竹ゑけうちゑ出こ
こいふゑのねうう山ひけう
もうゑのひこそこむうこ

ようこうこ三人ひゑうこ

二とせのとしのはるのはつかのころ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆかりとなりしとなりきこしめすに
なりてもとくとかけるをもとかけるを清の網云つくつ
いまとるといふるもありそれ神よこうたいふ川とい
ときこ行川をまいふことをもありれるし事うれと
論をあらうとなること